

第20回全国市議会議長会研究フォーラムin札幌

令和7年8月26日(火)～28日(木)北海道札幌市
(札幌文化芸術劇場 hitaru)

【第1日】 8月26日(火) 札幌市内への移動日(航空機、新幹線等利用、約7時間)

【第2日】 8月27日(水) 午後1時～午後4時50分

1 開会式

丸子会長(山形市議会議長)の開会挨拶に続き、札幌市議会議長内議長が歓迎挨拶を行った。その後、来賓として、札幌市秋元克広市長から挨拶があり、会議に入った。

2 第1部 基調講演

「主権を預かる誇りと責任」

伊吹文明 元衆議院議長

- ・議員とは、市民から主権を託される存在、その責務と誇りをもって活動しなければならない。
- ・政治離れが進む中、透明性、説明責任を果たさなければならない。
- ・市民との対話を深め、なり手不足の解消につなげていただきたい。

3 第2部 パネルディスカッション

「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

コーディネーター 辻 陽 氏 近畿大学法学部教授

パネリスト 牧原 出 氏 東京大学教授

白石 洋一 氏 読売新聞東京本社政治部次長

山下 節子 氏 山口県宇部市議会議長

長内 直也 氏 北海道札幌市議会議長

- ・地方議会・議員に関する無関心、若しくは不信が広がる現況→選挙における投票率低下
- ・なり手不足問題に関する3つの論点
 - ① 議員の多様性や住民代表性の確保:若者や女性、会社員などが立候補しやすい環境の整備
 - ② 議員定数、議員報酬のあり方検討
 - ③ 地方議会の役割及び議員の職務等の明確化デジタル化の背景にあるもの…新型コロナ感染症拡大による気付き⇒社会全体のトランスフォーメーションと地方行政のデジタル化
- ・人口減の中で、議会における不変の熟した議論の場を活性化
- ・有権者が感じる点は議員も痛感「お金がかかりすぎる」「報酬が低い」
- ・「資質と志の高い議員」のなり手不足対策→議員の仕事の魅力発信を
- ・主権者教育の取組も大切

4 次期開催地(島根県松江市議会 野々内誠議長)挨拶

【第3日】 8月28日(木)

5 第3部 課題討議

「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーター 牧瀬 稔 氏 関東学院大学法学部教授

事例報告者 今井 康義 氏 長野県岡谷市議会前議長

平神 純子 氏 鹿児島県南さつま市議会議員

中野 進 氏 石川県白山市議会議長

「諦感的なり手不足」…都道府県議員での傾向。勝てる見込みがないため出馬を控える傾向。現職が後継者を指名せず引退すると多くの候補者が立候補する傾向もある。議員になりたいけれどもなれない。

「必然的なり手不足」…町村議員での傾向。議員報酬が低い。政務活動費がない。住民との距離が近いいためプライベートが確保できない。議員になろうとは思わない。

① 岡谷市議会の取組

・「マニフェストスイッチ」で各議員の政策を公開「政治家を志した理由」「地域のありたい姿」「解決したい課題」など

・市民参加型の意見交換会、小中学生に対する啓発活動(子育て支援学級や中学生メッセージでの市議会講座実施

「議員のなり手不足に向き合う」シンポジウム開催、アンケート実施

② 南さつま市議会の取組

・鹿児島県内の女性議員を100人にする会→セミナーや出前講座実施

・1996年発足時には28人だった女性議員が、現在89人(一時期100人を超えた)

③ 白山市議会の取組

・R3年の選挙で定数より2名少ない中、全員当選。

・議員年齢は40代～70代以上、30代、20代は皆無。

・市民との意見交換会「みんなでギカイを考えるキカイ」(MGK)を開催

・市民の意見を聞くため広報公聴委員会を設置、さらに「広報部会」と「広聴部会」を設けた。

・議員立候補環境等の改善のため政治倫理条例を改正

→ 親族等の請負契約を制限する努力規定を廃止して、市民への疑義を生じさせないよう努力規定を設ける改正を行った。

6 閉会式

全市議会議長会副会長が閉会の挨拶を行った。

第20回

全国市議会議長会研究フォーラム



熊本県 水俣市議会
議員

松本 和幸

中継会場 B列-21



2499

受付番号：4021638-00

